

氏名	赤澤啓史
学位の種類	医学博士
学位授与番号	博甲第888号
学位授与の日付	平成3年3月28日
学位授与の要件	医学研究科外科系整形外科学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文題目	A New Open Reduction Treatment for Congenital Hip Dislocation : Long-term Follow-up of the Extensive Antero-lateral Approach (先天性股関節脱臼に対する新しい観血的整復術：広範囲展開法の長期成績)
論文審査委員	教授 寺本 滋 教授 折田薫三 教授 村上宅郎

学位論文内容の要旨

先天性股関節脱臼の治療において、早期発見の機会を失したり、保存的治療で十分な整復位が得られない症例に対して、著者らは独自の広範囲展開法による観血的整復術を施行してきた。この方法が既存の方法と異なる点は、関節包後上方の癒着を剥離し、関節包を寛骨臼付着部で全周にわたり切離し、術直後より可及的完全な求心位を得ることにある。今回、1才から3才の間にこの広範囲展開法が施行され、9才以上に達した51例58股(男6例、女45例)の長期成績をはじめて調査した。臨床的には疼痛、著明な跛行、Trendelenburg 徴候、日常生活動作の障害を訴えるものはなく、Gibson の臨床評価を行うと48例(94.1%)が Group I、3例が Group II であり、それ以下のものはなかった。X線学的評価は、Severin の評価を用いて行ったが、Group I は58股中33股、Group II 14股、Group III 10股、Group IV 1股で、Group V、VI はなかった。また、ペルテス病様変化を3例3股(5.2%)に認めたが、十分満足すべき成績が得られていた。

なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査の結果の要旨

本研究は先天性股関節脱臼の治療に関する臨床的研究であるが、新しい観血的整復術としての広範囲展開法を行った症例について長期遠隔後の成績を検討し、その優秀性を立証したものである。整形外科領域における重要な知見を得たものであって価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。